

# 平成 29 年度複式・少人数指導に係る研修会

平成 29 年 6 月 30 日（金） 庄原市立川北小学校

川北小学校公開研究会との合同開催とし、複式授業や少人数指導における指導の在り方を研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図ることを目的に、研修会を行いました。

【公開授業】「第 1・2 学年 算数科」授業者 川北小学校 教頭 新見 伸子  
「第 3・4 学年 算数科」授業者 川北小学校 教諭 藤岡 久美子  
「第 5・6 学年 算数科」授業者 川北小学校 教諭 日高 孝  
【研究協議】低学年部会・高学年部会



◆公開授業をもとに、低学年部会（1～4 学年）・高学年部会（5・6 学年）に分かれて、複式・少人数指導における授業の充実について協議を行った。

- ・教材提示の工夫をすることで、児童に既習の内容や経験とのずれに気付かせ、問いを生み出すことができる。
- ・適用問題の工夫によって児童に新たな問いをもたせることで、次時の学習へのつながりをつくり、主体的な学びへとつなげることができる。

## 【講評】

広島文教女子大学 人間科学部初等教育学科 教授 今崎 浩



### ◆児童生徒の将来を見据えた指導

- ・少人数がゆえに手を出しすぎることがある。自立をめざした指導を意識的に行う。

### ◆間接指導、直接指導の充実

- ・児童が学習を進めるのを見守る時間（同時間接）が重要である。必要に応じて柔軟に指導ができる。

### ◆川北小が設定している「目指す話し方」について

- ・「算数の授業で使う話し方」については、それを使うような授業を意図的につくる中で力を付ける。
- ・評価規準を共有化し、適正な評価をして児童にフィードバックをする。

## 【参加者の振り返りより】

- ・学習リーダーとフォロワーが育っている。話し合いが児童同士の関わり合いのなかで進み、課題を解決していこうとする主体的な姿が見られた。自校でも、学習リーダーを中心とした話し合い活動を授業のどこでどのように生かすのかを全職員で共通認識をもち、取り組みたい。
- ・複式学級ならでは、自律的に学習せざるを得ない状況を生かして、主体的に学習する児童の育成を図りたい。